

国際がんサポーターティブケア学会2023 開催結果報告

1 開催概要

- (1) 会 議 名：（和文）国際がんサポーターティブケア学会2023
（英文）The MASCC/JASCC/ISOO 2023 Annual Meeting
（略称：MASCC/JASCC/ISOO 2023）
- (2) 報 告 者：第8回日本がんサポーターティブケア学会学術集会会長 齊藤 光江
- (3) 主 催：日本がんサポーターティブケア学会（JASCC）、日本学術会議
- (4) 開 催 期 間：学術集会：2023 年 6 月 22 日（木）～24 日（土）
市民公開講座：6 月 25 日（日）
- (5) 開 催 場 所：奈良県コンベンションセンター（奈良県奈良市）
- (6) 参 加 状 況：48ヵ国・地域 1,551人（国外665人、国内886人）

2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯：

がん治療は、がん撲滅を目指して産学官が協働し、この数十年で腫瘍縮小、緩解・生存延長の観点から目覚ましい進歩を遂げてきた。しかしながら、後回しにされてきた治療による弊害が、がん罹患後も長く生きられるようになったが故に次世代の課題になっている。これに早くから着目していたMASCCは欧州から発生し、サポーターティブケア（支持療法；がん治療による副作用に対する治療やケア）の重要性を唱えるに至った。最近特に CINV（化学療法活発悪心嘔吐）、悪液質の領域は日本での研究成果が目覚ましいため、世界の注目を集めている。

がんの支持療法に特化した研究を推進する唯一の国際学会MASCCは、これまで欧米を中心に開催されてきた。しかしながら、4年前に豪州で開催したのを皮切りに、真の国際性を追求し、開発途上国やアジアの支持療法研究をリードする日本への進出を試みる機会として、2018年のウィーンで開催された MASCC/ISOO2018で日本開催が正式に決定され、奈良県で開催することとなった。
- (2) 会議開催の意義・成果：

がんサポーターティブケアのアジアで初めての国際学術集会であり、この会議を日本で開催することは、我が国および近隣のアジア諸国のサポーターティブケア分野の基礎研究や臨床研究成果を全世界の研究者に大きくアピールし、多くの研究者の参画を促す絶好の機会となるとともに、我が国とアジアのこの分野の研究者に世界の多くの科学者と直接交流する機会を与えることとなり、我が国のサポーターティブケアに関する研究を一層発展させる契機となる。また、市民公開講座を行うことにより、社会に還元し、一般社会の関心を大いに高めることが期待される。

- (3) 当会議における主な議題（テーマ）：
がん支持療法におけるロボティクス、伝統医療、医療アクセスの課題解決
- (4) 当会議の主な成果（結果）、日本が果たした役割：
COVID19 感染拡大で、久しぶりのface to faceの交流の場となり、韓国をはじめアジア諸国が国際レベルのがん支持医療研究発表と触れ合う機会となった。西洋諸国は奈良という立地も手伝い、日本の得意分野のみならず、東洋医学に強い関心を頂いた。
- (5) 次回会議への動き：
フランス リール 2024年6月27日（木）～29日（土）
`Empower People Impacted by Cancer and Living with Toxicities`
- (6) 当会議開催中の模様：
一番の醍醐味は、準備段階における海外と日本の研究者の合同会議であった。それぞれ約20あるstudy groupの過半数が、合同で大会に向けて準備をした。がん支持医療の現時点での課題共有と学術集会に見合ったテーマ決め、演者決めを行い、そしてそういったセッションが取り上げられるか否かの審査会を経て選ばれたセッションは、学術集会本番に於いても当然ながら活気のあるものであった。初日プレナリーのロボティクスにおいては、3名の日本人と1名の海外研究者による支持医療への工学技術導入の最先端例が報告され、科学技術大国日本の存在意義が確認されるいい機会であった。2日目のプレナリーでは、伝統医療とEBMというテーマで、漢方医学のエビデンスを含む発表があり、支持医療だからこそ、見直されている伝統医学に関して新しい気付きに満ちたものになった。最終日のプレナリーは医療格差の問題を開催地奈良での地方行政を長年担われた為政者、規制当局の国際委員長、そしてアジアで市民啓発を続けているASEANの医師、国際学会役員からのグローバルな医療格差に関する調査結果の発表があり、医療界以外からの発表の機会はこれまで稀有であったため、好評を博した。
- (7) その他特筆すべき事項：
当初シンガポール・香港が候補に挙がったが、ロビー活動が功を奏し、日本がアジア初の MASCC/JASCCを開催する運びとなった。韓国でのKASCC立ち上げの大きな牽引力となった。

3 市民公開講座結果概要

- (1) 開催日時：2023 年6月25 日（日）
- (2) 開催場所：東大寺金鍾ホール（奈良）、順天堂大学小川記念講堂（東京）
- (3) 主なテーマ、サブテーマ：
『人は誰でも間違える』医療を良くするために患者にできること
「がん支持医療への市民参画」、「意外と知らないお金のはなし」
- (4) 参加者数、参加者の構成：
・参加登録者数：141 名、当日参加者数：102 名（奈良46 名、東京56 名）
・年代別参加登録者
20代6 名、30代6 名、40代27名、50代39名、60代32名、70代26名、80歳以上3 名、
開示しない2 名 計141名
・参加登録者『属性』
がんサバイバー46名、がん患者家族21名、臨床医10名、薬剤師9 名、看護師9 名、

患者アドボケート2名、企業人（研究職以外）6名、研究者（企業）0名、研究者（企業以外）5名、医療行政関係者1名 医療技術士31名、栄養士1名、心理士1名、学生や大学院生7名、その他20名 計141名

(5) 開催の意義：がんサポーターシップケアの市民への普及

(6) 社会に対する還元効果とその成果：

がんサポーターシップケアの周知と最大の普及を狙って、患者会へ呼びかけ、好評を得た。継続性を期待された。（アンケートより）

4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

開会式において、日本学術会議副会長のあいさつには大きな関心が寄せられ、また日本学術会議の方々にも当学会とその研究領域についてご理解を賜ったことに大きな意義があったと考える。

学問としてのがん支援医療（サポーターシップケア）の認知度が上がったと認識しております。また、総理からメッセージを頂けたことで、大きなインパクトがあったことが各関連施設のニューズレターから見てとれた。

会議の様子



開会式



日本学術会議 高村ゆかり様





